

“県民みんなの財産である熊本の森林を次の世代へ”

「熊本県水とみどりの森づくり税」事業に関する 実績報告書

令和3年度（2021年度）



熊本県農林水産部

目 次

I 水とみどりの森づくり税事業の実績（令和3年度（2021年度））

- 1 事業費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 事業量等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり
 - (2) 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

II 令和3年度（2021年度）に実施した事業

1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

- (1) 防災・減災・景観保全森林整備事業・・・・・・・・・・ 8
- (2) 災害に強い森林づくり先導推進モデル事業・・・・・・・・ 9
- (3) 花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業・・・・・・・・・・ 10
- (4) 次世代につなぐ森林づくり事業・・・・・・・・・・ 11
- (5) 主伐・植栽一貫作業システム支援事業・・・・・・・・・・ 12
- (6) シカ森林被害防止対策・・・・・・・・・・ 13
 - ①シカ森林被害防止事業
 - ②シカによる森林被害調査・地域対策支援事業
- (7) 特定鳥獣適正管理事業・・・・・・・・・・ 17
- (8) 伐採適正化推進事業・・・・・・・・・・ 18
- (9) 試験調査事業・・・・・・・・・・ 19
 - ①センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究
 - ②シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究
 - ③シャカインの雄花着花性に関する研究
- (10) 林業研究グループ等育成対策事業・・・・・・・・・・ 22
- (11) くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）・・・・ 23
- (12) 地域の森を育てる担い手育成支援事業・・・・・・・・・・ 24

2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

- (1) 県民の未来につなぐ森づくり事業・・・・・・・・・・ 25
- (2) 県民の森林づくり緊急整備事業・・・・・・・・・・ 31
- (3) 漁民の森づくり事業・・・・・・・・・・ 32
- (4) ふるさと熊本の樹木活用促進事業・・・・・・・・・・ 33
- (5) 水とみどりの森づくり税PR事業・・・・・・・・・・ 34
- (6) くまもとの木と親しむ環境推進事業・・・・・・・・・・ 35
- (7) くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業・・・・・・・・ 38
- (8) 特用林産物流通促進事業・・・・・・・・・・ 39

I 水とみどりの森づくり税事業の実績
(令和3年度(2021年度))

1 事業費

令和3年度（2021年度）は、総額571,190千円の税を活用しました。（単位：千円）

施策（事業）	水森税充当額
1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり	434,003
防災・減災・景観保全森林整備事業（※6）	174,926
災害に強い森林づくり先導推進モデル事業（※1）	2,016
花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業（※6）	7,782
次世代につなぐ森林づくり事業（※2）（※6）	183,003
主伐・植栽一貫作業システム支援事業（※3）	4,291
シカ森林被害防止事業（※4）（※6）	2,108
シカによる森林被害調査・地域対策支援事業	11,226
特定鳥獣適正管理事業	20,645
伐採適正化推進事業	1,522
試験調査事業	
センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究	2,811
シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究	2,307
シャカインの雄花着花性に関する研究	2,474
林業研究グループ等育成対策事業	6,705
くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）	222
地域の森を育てる担い手育成支援事業	11,965
2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり	137,187
県民の未来につなぐ森づくり事業（※6）	57,956
県民の森林づくり緊急整備事業（※5）	12,222
漁民の森づくり事業	12,397
自然保護普及啓発事業	1,765
水とみどりの森づくり税PR事業	1,543
くまもとの木と親しむ環境推進事業	21,255
くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業	28,823
特用林産物流通促進事業	1,226
合 計	571,190

- （※1）令和2年度からの繰越分 2,016千円を含む。
（※2）令和2年度からの繰越分 129,370千円を含む。
（※3）令和2年度からの繰越分 4,282千円を含む。
（※4）令和2年度からの繰越分 2,108千円を含む。
（※5）令和2年度からの繰越分 6,907千円を含む。
（※6）令和4年度への繰越あり（計95,653千円）。

2 事業量等

(1) 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

事業名	主な実施内容	事業量
防災・減災・景観保全森林整備事業	流木発生抑制のため溪流沿い等の森林で強度間伐と、ライフライン保全のための道路沿線の森林整備	460.84ha
災害に強い森林づくり先導推進モデル事業	経済活動としての林業と県土保全の両立に向け、災害の発生リスク低減の視点を取り入れた林業活動の普及推進	一式
花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業	花粉症対策品種等のスギ苗木供給に向け品種・系統が明確な優良苗木生産のための採穂園の造成等	3.20ha
次世代につなぐ森林づくり事業	伐採跡地の再造林や広葉樹林への転換及び確実な更新を推進	412.59ha
主伐・植栽一貫作業システム支援事業	再造林経費の低コスト化につながる一貫作業システムを支援し、主伐後の再造林を促進	34.29ha
シカ森林被害防止事業	シカによる森林被害を防止するための施設の設置及び維持修繕	750.94ha (修繕)
シカによる森林被害調査・地域対策支援事業	シカによる人工林の被害面積を推定するためのプロット調査を実施	515プロット
特定鳥獣適正管理事業	シカを適性密度に誘導するため有害鳥獣捕獲を促進	17,997頭
伐採適正化推進事業	森林法に基づく適正な伐採及び造林を推進するための現地伐採箇所の調査	一式
試験調査事業		
センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究	センダンの伐期短縮化のための優良系統の選抜・増殖と直径成長を促進するための施業技術の開発	一式
シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究	シカの捕獲対策に必要な技術・猟具の検証	一式
シャカインの雄花着花性に関する研究	花粉の少ないスギに関する基礎研究	一式
林業研究グループ等育成対策事業	山村を支える新たな担い手や地域リーダーの発掘・育成	基礎講座20名 指導者養成講座4名
くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）	森林・林業に関心を持つ方に向けた公開講座を実施	延べ29名

地域の森を育てる担い手育成支援事業	自伐林家等の森づくり計画作成や林業機械導入等に対する助成	森づくり計画 4地区 林業機械助成 3地区
-------------------	------------------------------	--------------------------------

(2) 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

事業名	主な実施内容	事業量
県民の未来につなぐ森づくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・住民団体等の森づくり活動支援 ・森林公園の整備・活用支援 ・立田山森林教室や自然観察会等の実施及び森林インストラクターの養成等 ・森林ボランティア等の活動支援 	27団体 17団体 延べ403人参加 17人修了 現地指導3回 報告交流会2回など
県民の森林づくり緊急整備事業	森と親しむための森林公園の環境整備	1箇所
漁民の森づくり事業	植栽、下草刈りの実施 流木除去等の海岸清掃の実施	12.9ha 2.1km ²
ふるさと熊本の樹木活用促進事業	ふるさと熊本の樹木に関する普及啓発や樹木の基礎調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座 ・基礎調査 	延べ1回 32箇所
水とみどりの森づくり税PR事業	税制度の周知啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告掲載、PR活動 	新聞広告 主要5紙1回
くまもとの木と親しむ環境推進事業		
くまもとの木製遊具推進事業	木製遊具・積み木の貸出 木育プログラムの実施	延べ35回 35回
木とともに育つ環境整備事業	保育所等が机・椅子等の木製品を購入する経費の一部を助成	21施設
くまもとの木で育む教育推進事業	小学5年生社会科用及び中学技術・家庭科用副読本を作成、配布 木育インストラクターの認定 くまもと木育のつどいの実施	小5 17,695人 中1 18,358人 認定者39人 参加者157人
くまもとの木とふれあう木育推進事業	木育活動を行う団体等の活動する経費の一部を助成	12団体
くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業		
木を活かした景観づくり事業	県産木材を使用した標識設置等による景観形成	8市町 15団体
木製塀普及促進モデル事業	県産木材を使用した木製塀の設置に対する助成	8市町 11団体
特用林産物流通促進事業	森の恵み(特用林産物)の普及促進 <ul style="list-style-type: none"> ・PR活動 ・特用林産物の研修会 ・くまもと森の恵みサポーター募集 	WEB広告、参加者20人 登録20人

Ⅱ 令和3年度（2021年度）に実施した事業

1 県民の安全安心を守り、次世代につなぐ森づくり

水を蓄え災害を防ぐことができる元気な森林を維持するため、手入れの行き届いていない人工林を自然林に近い状態へ誘導する施策や、伐採後の再造林支援、二ホンジカ（以下「シカ」という）による森林被害防止、地域の森林を守り育てる人材育成などの取り組みを行っています。

（1）防災・減災・景観保全森林整備事業

森林の公益的機能が維持されるには、適切な管理と整備が必要です。しかし、森林所有者の経営意欲の低下や山村経済の疲弊、人口減少等による担い手の不足などにより、管理が行き届かない森林が増加しています。

この事業では、森林所有者による適切な管理や整備が困難な人工林について、強度（本数で40%程度）の間伐を行い、立木に適度な間隔を持たせて森林への日光の入りを良くし、広葉樹等の下層植生の生育を促して、針葉樹と広葉樹が混ざった自然に近い森林に誘導することにより、山地災害防止等の公益的機能を高度に発揮できる、健全な森林の育成を図っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

間伐実施面積	事業を実施した市町村数	実績額（※）
460.84ha	22市町村	174,926千円

（※）令和4年度（2022年度）への繰越額：8,168千円あり。



間伐前の真っ暗な森林



強度の間伐後



将来イメージ



水森税を活用して整備した森林に看板を設置

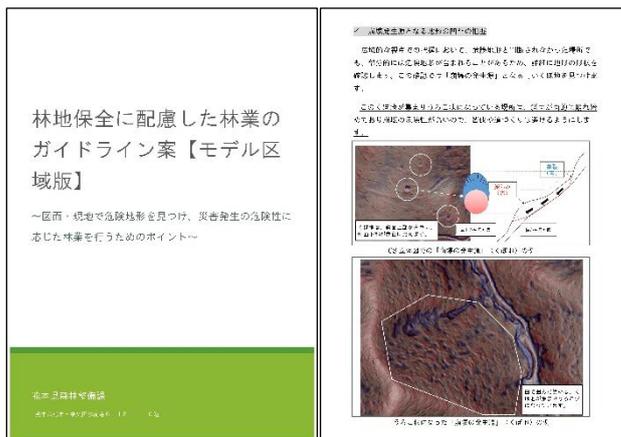
(2) 災害に強い森林づくり先導推進モデル事業

近年、森林資源の充実に伴って皆伐が増加傾向にあり、林業生産活動が活発になっています。一方、地球温暖化に伴う異常気象による土砂災害が頻発化・激甚化する中、地域住民をはじめ多くの方々が森林の土砂災害を防ぐ機能を再認識し、その機能の継続的な発揮へ期待を寄せています。

この事業では、林業関係者に対して、経済活動としての林業と県土保全の両立ができるように、災害の発生リスク低減の視点を取り入れた林業活動の実施について普及推進しています。

○令和3年度（2021年度）の実績

令和2年7月豪雨災で山地災害や土砂流出が発生した球磨地域の幸野溝・新幸野溝上流地域のモデル地区において、図面及び現地確認による災害が起こりやすい地形などの判読方法や、その施業方法について「林地保全に配慮した林業のガイドライン」として作成し、モデル地区でのガイドラインに基づいた現地検証を行いました。



林地保全に配慮した林業のガイドライン【モデル地区版】



モデル地区での現地検証

(3) 花粉の少ないスギ苗木生産拡大事業

スギは、木材として優れている一方で、花粉症でお困りの方も少なくないことから、花粉量が従来よりも少ない品種の苗木の供給が求められています。

そこで、この事業では、花粉症対策につながるよう品種や系統が明確な優良苗木を生産して広く供給していくために、採穂に必要な経費を支援しています。

また、初期の成長に優れた林業の低コスト化につながるエリートツリーの普及のための試験等を行っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
スギ採穂園の造成	1.67ha	2,332千円
スギ精英樹成長比較試験地等造成事業	1.54ha	5,450千円

（※）令和4年度（2022年度）への繰越額：4,100千円あり。



スギ採穂園造成

(4) 次世代につなぐ森林づくり事業

森林の木を全部伐った後で適切に再造林を行えば、循環利用が可能な森林を次の世代に引き継ぐことができるとともに、災害防止や水源かん養などの公益的機能の維持が図られます。しかし、林業の採算性悪化など経済上の理由などにより、再造林が行われず放置される場合があります。

この事業では、伐採後の再造林が確実に行われるよう、必要な経費の一部（苗木代等）を支援し、伐採跡地の確実な更新を推進しています。

また、植栽木の確実な生育を確保するため、ネットなどのシカ食害防止施設設置等の支援を行っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
植栽に要する苗木代の一部助成	397.31ha	48,379千円
広葉樹植栽経費の一部助成	15.28ha	4,051千円
シカ食害防止施設設置への助成	ネット:188,893m	67,944千円
保育支援	1,192.05ha	61,429千円
荒廃農地森林造成	0.38ha	60千円
侵入竹の除去	4.0ha	1,140千円

（※）令和2年度（2020年度）からの繰越額：129,370千円を含む。

令和4年度（2022年度）への繰越額：76,300千円あり。



再造林



シカ被害防止柵



侵入竹

(5) 主伐・植栽一貫作業システム支援事業

成熟期を迎えたスギ・ヒノキが本格的な利用期を迎える中、森林資源を循環利用して公益的機能を維持増進するため、主伐後の再造林を行っていく必要があります。

しかし一方で、主伐後の植栽から保育に要する育林経費は森林所有者の負担も少なくないことから、再造林が適切に行われぬおそれがあります。

そこで、この事業では、主伐と再造林の作業を一緒に行うことで再造林における低コスト化につながる一貫作業システムの支援を行っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
一貫作業システムによる再造林	34.29ha	4,291千円

（※）令和2年度（2020年度）からの繰越額：4,282千円を含む。



機械による地拵え



フォワーダによる苗木運搬



コンテナ苗の植栽

(6) シカ森林被害防止対策

①シカ森林被害防止事業

シカが生息する地域で再造林を行うには、シカによる森林被害を防止するため、侵入防護柵等の設置が必要となりますが、経費が嵩むことから再造林の推進上の支障となっています。

そのため、この事業では、森林の健全な育成と公益的機能の維持増進を図るため、侵入防止柵等の設置に要する経費の一部を助成しています。

また、既に設置した侵入防止柵等の維持修繕に要する経費や、シカが樹皮を剥がす被害を防止する資材の経費、シカの誘引捕獲を実施する場合の経費についても、その一部を助成しています。

○令和3度（2021年度）の実績

内容	実績量	実績額（※）
シカ被害防止柵の設置	1,563m	733千円
剥皮被害防止資材の設置	3.73ha	668千円
侵入防止柵等の維持修繕	750.94ha	707千円

（※）令和2年度（2020年度）からの繰越額：2,108千円を含む。

令和4年度（2022年度）への繰越額：5,685千円あり。



シカによる食害



シカによる剥皮害



シカ被害防止柵



剥皮被害防止資材
(ツリーシェルター)

②シカによる森林被害調査・地域対策支援事業

ア) シカ森林被害調査事業

シカによる人工林の被害については、その状況を把握し、効果的な防除や捕獲対策を実施する必要があります。そのため、この事業では、全県でスギ・ヒノキの人工林 515 地点に調査プロットを設定し、定点観測によるモニタリング調査を実施しています。

その結果によると、人工林におけるシカ被害発生推定面積は、毎年 1,000ha 程度で推移しています。

○年度別シカ被害発生推定面積 (H21～R3)

(単位：ha)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
新規被害面積	1,028	924	789	922	758	1,413	875	1,010	870	947	819	891	1,045
累計被害面積	21,068	21,992	22,781	23,703	24,461	25,874	26,749	27,759	28,629	29,576	30,395	31,286	32,331

○地域別シカ被害発生推定面積 (H30～R3)

(単位：ha)

振興局	熊本	宇城	玉名	鹿本	菊池	阿蘇	上益城	八代	芦北	球磨	天草	合計
H30	12	32	0	0	9	196	158	107	149	284	0	947
R1	46	19	0	0	0	199	88	17	390	60	0	819
R2	12	5	0	0	19	185	22	6	271	371	0	891
R3	94	0	0	0	18	181	107	50	288	307	0	1,045



植栽木の食被害



スギ、ヒノキ人工林の剥皮被害



プロット調査

イ) シカ地域対策支援事業 (R2～)

地域協議会が行う、情報共有等検討会や地域独自のシカ被害対策等に対して支援しています。令和3年度(2021年度)は次の3団体に支援を実施しました。

(i) やつしろの山づくり推進協議会の主な取組み

- ・ 捕獲技術向上のためのセミナーや技術講習会等の開催
- ・ 赤外線カメラ搭載ドローンによるシカ生態の調査
- ・ 林業者等の狩猟免許取得の促進
- ・ ICTセンサーカメラを活用した捕獲技術の向上

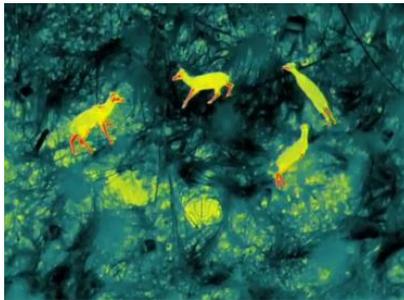
- ・シカ専用の囲い罠や ICT ゲートの開発
- ・地元高校生によるジビエ利用実習への支援

《 取組みの成果 》

- ・ ICT 機器で実際の行動を目にすることで、関係者の危機感と捕獲意欲の向上につながりました。
- ・ 林業者にシカ被害を自分の事としてとらえてもらうことで、シカ捕獲へのチャレンジを促進しました。
- ・ 捕獲奨励金によって林業者の収入向上につながりました。



くくり罠技術講習会



赤外線ドローン撮影



箱罠設置研修（八代工業高校）

(ii) 山鹿市被害防止対策協議会の主な取組み

- ・ 山鹿市被害防止対策協議会会員及び猟友会会員、林業者、行政関係者等を対象に、センサーカメラ、ダブルキックバネ設置講習会や、発信機、受信機及び暗視カメラ設置講習会の開催

《 取組みの成果 》

- ・ 発信機や受信機、暗視カメラ等の取扱いや設置方法について、そのポイント等を学ぶことができました。
- ・ 罠を仕掛ける際のコツや罠にかかった時の罠への近づき方、捕獲後の処理方法等について学ぶことができました。
- ・ 様々な立場の人が集まり、同じ研修を受けることで、お互いの技術の情報交換等ができ、今後の協力体制構築への一歩となりました。



くくり罠技術講習会



発信機等設置講習会

(iii) 水俣市有害鳥獣被害防止対策協議会の主な取組み

- ・ 林業事業者、局職員、市町職員、農業者、猟友会等を対象にイノ P 稲葉氏を講師に捕獲に関する研修会の開催
- ・ ドローン赤外線カメラによるシカ生息の調査

《取組みの成果》

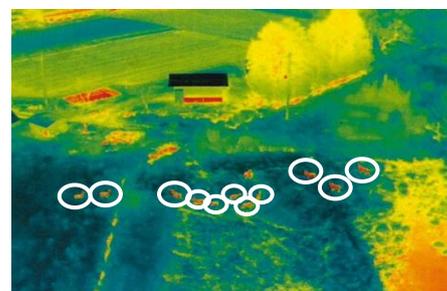
- ・ 研修会を通して、猟友会や農林業者に対し狩猟免許の積極的な取得の呼びかけやその支援を行った結果、令和3年度の狩猟免許取得者（林業者を含む）は前年度の倍以上に増加しました。
- ・ また、シカの捕獲を積極的に推進した結果、令和3年度のシカ捕獲頭数は前年度の約2倍に増加しました。



イノ P 稲葉氏講師による研修



ICT カメラの設置研修



ドローン赤外線カメラによる
生息調査

(7) 特定鳥獣適正管理事業

この事業では、シカを適正頭数に誘導するため、有害鳥獣捕獲によってニホンジカを捕獲した者に対する市町村の報奨金（国、県、市町村併せて1頭当たりおおむね9,000円以上）について、その経費の一部（1頭当たり1,000円以内）を助成しています。

また、狩猟者の減少・高齢化が進む中、次世代を担う若手の狩猟者の確保を図っていくため、農林系高校を対象に鳥獣被害の現状や対策に関する講座や、実際に猟具を取り扱う実習、キジの放鳥体験を行う出前講座を開催しています。

さらに、地域で若手狩猟者の育成・狩猟活動に取り組む団体への助成を行いました。

これらの取組みにより、25名の高校生が「わな猟免許」を取得しています。

○令和3年度（2021年度）の実績

事業内容		実績額
有害鳥獣捕獲	34市町村 17,997頭	17,997千円
農林系高校への鳥獣被害防止に関する出前講座(2校)等		1,138千円
若手育成狩猟活動支援（5団体）		1,452千円



鳥獣被害に関する講座（熊本農業高校）



模擬銃を使った取扱い実習（南稜高校）



キジの放鳥体験（南稜高校）



解体施設の見学（熊本農業高校）

(8) 伐採適正化推進事業

森林資源の成熟化に伴い県内の伐採箇所は増加しており、不適切な伐採箇所や無届による伐採箇所、未植栽箇所の増加が懸念されています。

この事業では、伐採箇所の現地調査のほか、事業者や森林所有者の方向けにパンフレット配付等を行い、市町村や事業者等への指導などを通して適正な伐採や造林の確保に努めています。

これらの取組みを通じて森林法第10条の8に基づく伐採及び伐採後の造林の届出による適正な伐採及び造林を推進し、森林の公益的機能の維持・増進を図っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

内容	実績
<ul style="list-style-type: none"> ・森林法第10条の8に基づく「伐採及び伐採後の造林の届出」がなされた箇所等の現地調査の実施 ・制度周知を目的とするチラシ等の作成及び配布の実施 	伐採箇所の現地調査に必要な体制の構築により、監視体制の強化が図られ、適正な伐採及び造林を推進



伐造届や保安林伐採許可の手続き証明旗の配布と現地掲揚を指導



チラシ(左)や巡回車用のマグネット(右)を作成・活用した制度の周知

(9) 試験調査事業

この事業では、多様で豊かな森林の造成・管理・保全を推進し、森林が持つ水源かん養機能や防災・減災機能等の様々な公益的機能の維持増進を図るため、この税を活用して、さまざまなテーマで調査研究を行っています。



実施機関：熊本県林業研究・研修センター

① センダンの短伐期施業を目的とした系統選抜と施業技術に関する研究

熊本県では、家具材や内装材など、用材生産を目的とした短い伐期（植栽から伐採までの期間）で収穫が可能な樹種として、センダン林の造成を進めています。

センダンの伐期のさらなる短縮化に向け、次の試験研究に取り組んでいます。

ア) 成長が早い優良系統の追加選抜

九州地域内のセンダン大径木から枝を採取し、つぎ木による採種用クローン苗を育成しています。令和3年度(2021年度)は大分県内の大径木5本を選抜しました。

イ) 芽かきの実施高を変えた場合の成長調査

伐採までの期間の更なる短縮を目指し、家具材に利用が可能な長さされる2.0mの直材の生産ができるように技術的な試験を実施しました。幹をまっすぐに仕立てるため「芽かき」を実施しますが、4.0m材を得るために4.5mまで芽かきを行う場合と、2.0m材を得るために2.4mまで芽かきを行う場合との成長量を比較し、2.4mまでの芽かきでは直径成長が良好で、伐期を短縮できる可能性があることを確認しました。



写真1 選抜・採取した枝をつぎ木した様子

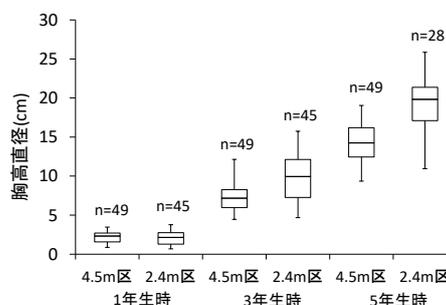


図1 芽かき高別の胸高直径の推移

② シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究

シカの生息数増加や生息域の拡大により、山に植栽した木や林地に生えている下草を食害され、樹皮を剥がされるなどの被害が増えており、森林環境や林業経営上、深刻な問題となっています。

県では、シカから木を守る対策と、シカを捕獲する対策を行い、被害軽減に努めています。捕獲対策では、わなの危険性をシカに学習させずに捕獲する高度な技術と適正な「わな」の選択が必要です。そのため、わなによる捕獲技術の検証や、シカの捕獲に適した「わな」を選定するための検証を行っています。

ア) シカ個体調査

県内の獣肉加工処理施設に搬入されるシカの個体サイズ（体重、体調、前足と後足の間隔、足の爪幅、妊娠の有無）等を調査し、わなの捕獲技術検証の基礎資料としています。

イ) わな（くくりわな）の使用実態調査及び性能検証

県内で使用されているくくりわなの使用実態を調査し、その性能について検証を行い、シカを捕獲するために適したくくりわなを選定するための基礎資料としています。

ウ) わなによる捕獲技術の検証

山林内において、シカにわなの危険性を学習させずに確実に捕獲するための手法を検証しています。

エ) 捕獲効率の高い環境フィールド整備の検証

シカが足場の悪い場所を嫌う習性を利用し、林内にある複数の獣道のうち、捕獲に適さないけもの道に間伐材などを置くことで通行を遮断し、通行が可能なけもの道での捕獲効率を検証しています。



写真1 シカ個体調査



写真2 わなの性能検証

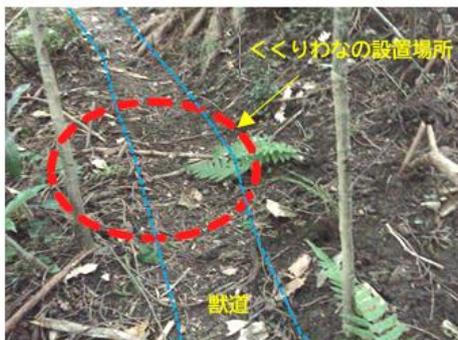


写真3 わなの捕獲技術検証

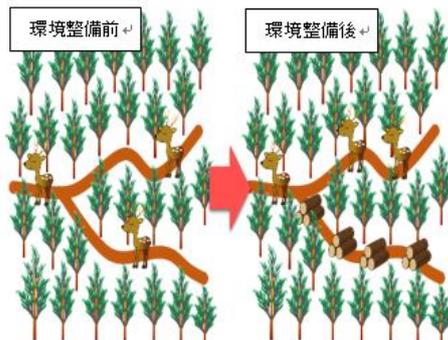


図1 環境整備による捕獲効率の検証

③ シャカインの雄花着花性に関する研究

近年、スギ花粉症が社会的に大きな問題となっています。スギ花粉発生源への対策が求められており、花粉の少ない品種や系統（以下、「花粉症対策品種」という。）を植栽することで、花粉飛散量を減らす取組みを行っています。

この品種の一つである県下益城1号は、県が平成28年度(2016年度)に花粉症対策品種（低花粉）として認定しています。県内の流通に限り、花粉症対策品種として取り扱うことができますが、さらに、国指定の花粉症対策品種として登録を目指し、令和2年度(2020年度)から雄花着花性（雄花の着き具合）の調査を開始しています。

この調査を継続し、調査結果をもとに県下益城1号の雄花着花性を総合的に判定していきます。



写真1 スギ雄花



写真2 雄花着花性調査状況

(10) 林業研究グループ等育成対策事業

森林を適切に管理・整備し、公益的機能の維持増進を図るためには、地域の森林を自ら守り育てる人材の育成が重要です。

この事業では、くまもと林業大学の「自伐林家育成コース」等として、山村集落の活力を高めるための新たな山村を支える担い手（自伐林家等）の発掘・育成を図り、併せて地域における指導者（リーダー）である林業研究グループ等の活動を支援しています。

○令和3年度（2021年度）の実績

地域リーダー（林研グループ会員）が「指導者の心得や指導方法等」を学ぶ指導者養成講座については8日間開催し、4名の参加がありました。これから森づくりを始めたいという初心者の方が「林業の基礎知識等」を学ぶ基礎講座については、4日間開催し、20名の参加がありました。



指導者養成講座（教え方実習）



指導者養成講座（マニュアル作成実習）



基礎講座（安全に関する座学）



基礎講座（チェーンソー操作実習）

(11) くまもと林業大学校人財づくり事業（公開講座）

熊本県内の森林資源が成熟する中、木を伐って、植えて、さらに育てていくための人材の育成・確保が重要です。

このため本県では、平成31年（2019年）4月に「くまもと林業大学校」を開校し、林業に必要な技術と現場力を兼ね備えた即戦力となる人材の育成、そして意欲と能力のある林業経営者を養成することにより、次世代をリードする林業担い手の育成・確保を図っています。

その他、一般の方を対象に、森林の公益的機能の普及啓発を図り熊本の森林・林業に魅力と親しみを感じてもらうため、公開講座においてチェーンソーの使用と整備の方法の説明やワーキングデスクづくり等を行っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

講座の内容	参加人数等
チェーンソーの整備及び使用方法	1回 7人
ワーキングデスクづくり	1回 4人
竹細工体験	1回 10人
くまもと森林・林業ツアー	1回 8人



チェーンソーの整備及び使用方法



ワーキングデスクづくり



竹細工体験



くまもと森林・林業ツアー

(12) 地域の森を育てる担い手育成支援事業

豊かな森林を確実に次の世代に引き継いでいくためには、自伐林家などの地域の森を守り育てる方々が、計画的・継続的に森林整備の活動を行っていただけるよう、将来にわたる活動の継続を見据えた支援が必要です。

この事業では、林業研究グループや林業者等の組織する団体が、所有林と併せて他者の森林を対象に森林整備を行う場合、森づくり計画の策定に要する経費や公益的機能の維持増進を目的とした森林整備研修、林業機械の導入に要する経費に対して助成を行っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

支援の内容	参加人数等
森づくり計画の策定	4地区
林業機械導入（購入）	3地区



刈払機を使った作業講習



森林整備研修

2 県民全体で森に触れ、親しみ、支え、森の恵みを活かす意識づくり

県民の皆さまによる森づくり活動の支援、次世代を担う子どもたちへの森林環境教育、木のぬくもりや香りに親しむ環境づくり、県産木材を活用した景観づくりなどを通じて、森林の果たす役割やその重要性についての普及啓発を行っています。

(1) 県民の未来につなぐ森づくり事業

この事業では、森林の役割や重要性への県民の皆さまの理解向上や、森づくり活動への支援等を推進することで、県民全体で森林に触れ親しみ、守り育てるという意識の醸成を図っています。

① 県民みんなによる森づくり活動の支援

森林ボランティア団体等による植栽や間伐などの森づくり活動や、森林環境学習などの森づくりにつながる活動を推進するとともに、ボランティア活動内容の多様化に対応するため、自らのアイデアによる県民応募型活動を支援しています。

また、学校教育の場において体験的な森林環境教育が実践できるように、学校林など活用拠点の整備を支援するとともに、児童・生徒を対象にした間伐、下刈り等の森づくり活動体験や、自然観察、木工教室などの森林環境教育を支援しています。

○令和3度（2021年度）の実績

森林ボランティア9団体により、植栽約1.2ha、下刈り約3.4ha等の森づくり活動が行われ、計670人の参加がありました。また、県民応募型活動としては、シイタケ駒打ちや自然観察等の森林環境教育が4団体、ベンチやプランター等の間伐材を利用した施設の作製・設置が3団体、青年を対象とした森林整備等研修会が1団体により行われ、計865人の参加がありました。

また、自然観察会や木工体験等では、889人の児童生徒や保護者等が参加し、森林への関心を深めるとともに、その役割や森林整備の重要性・必要性について学びました。

合計で2,424人が森づくりに関する活動に参加され、県民参加の森づくりに関する意識の醸成が図られました。

ア) 団体等による森づくり（9団体）

植栽：1.2ha
下刈り：3.4ha
参加者数：670人

イ) 県民応募型活動 (8 団体)

間伐材等を利用した施設作製及び設置等 (ベンチ、花壇等) 3 団体
森林環境教育 (木工、シイタケ駒打ち体験、植樹等) 4 団体
青年を対象とした実施研修会の開催 1 団体 2 回
参加者数 865 人



木製ベンチ製作



実施研修会

ウ) 学びの森活動推進

体験学習：自然観察会、椎茸栽培駒打ち、木工教室、炭焼き体験、ウォークラリー等 (10 団体)



炭焼き教室



シイタケ駒打ち体験



体験学習



自然観察会

②森林公園の整備・活用の支援

市町村等が整備した森林公園（ふるさとの森林、みどりの小径）を対象として、県民の皆さまがより利用しやすくなるように市町村が実施する案内板等の標識の設置、歩道や管理道の整備等の事業を支援しています。

○令和3度（2021年度）の実績

熊本市の立田山憩の森をはじめ、県内17市町村で公園内の森林整備や遊歩道の整備等を行いました。

ア) 森林公園の整備・機能充実

「ふるさとの森林」及び「みどりの小径」として県が認定した森林公園を対象に市町村が実施する次の事業を支援しています。

- ・ 森林整備（植栽、下刈、除間伐、枝打ち）
- ・ 路網整備（歩道又は作業道の開設・補修）
- ・ 標識類整備（樹名板、標識及び案内板の設置・補修、パンフレット類の作成等）
- ・ 休憩施設（木製東屋、木製ベンチ及び木製テーブル等の設置・補修）
- ・ 安全防護施設（木製防護柵及び階段工等の設置・補修）
- ・ 利便性向上施設（簡易トイレ及び給排水施設等の設置・補修）



トイレ外壁の塗装



木製防護柵の設置

③森林環境教育等の支援

県内各地の森林公園等を利用した森林自然観察・体験教室や親子で学べる立田山森林教室の開催等、県民の皆さまが森とふれあい、森を知る機会を提供しています。

また、森林インストラクター養成事業にも取り組んでいます。

○令和3年度（2021年度）の実績

県民の皆さまに森林に親しんでいただくことを目的に、県内各地の森林で「森林自然観察・体験教室」を5回開催し、延べ166人の参加がありました。

あわせて、熊本市内の立田山と雁回山では交互に「森林ガイド」を8回開催し、延べ237人の参加がありました。

参加された方からは、「解説・説明が面白く、知らない植物にも出会えて勉強になった」、「森林浴を体験できリフレッシュできた」などの意見をいただき、森林や自然環境への理解を深めていただくことができました。

また、11月第2日曜日は「九州森林の日」となっており、毎年熊本県では「くまもと森づくり活動の日」としてイベントを開催しています。令和3年度（2021年度）は熊本県林業研究・研修センターで開催し、400人の参加者がありました。

加えて、森林インストラクターは「森の案内人」と呼ばれ、自然観察や体験活動を通して、森林の機能や恩恵を森林利用者に普及させる役割を担っています。令和3年度（2021年度）は、養成講座を修了した17人に修了証を交付しました。この17人は1年間のインターン活動を経て、熊本県森林インストラクターとして認定される予定です。



自然観察・体験教室の状況



森林ガイドの状況





くまもと森づくり活動の日の状況

④森林ボランティア等の活動支援

熊本県では、森林ボランティアの活動に関する総合窓口として「森づくりボランティアネット」を設置しています。森林ボランティア団体などの県民の皆さまへの情報提供や相談の受付、現地指導、必要な資材の貸出、技術研修会などを行い、森林ボランティアの活動を総合的に支援しています。

また、企業等の森づくりを促進するため、社会貢献や環境問題に取り組まれる企業等からの相談の受付、意見の調整なども行っています。

○令和3度（2021年度）の実績

森林ボランティア等に関する相談を24件受け付け、現地指導を2回行いました。

また、森づくり活動に必要な鎌や鉋等の貸出を35回行いました。

さらに、研修会や活動報告交流会を5回開催し、474人の参加がありました。

現在、森林ボランティアに取り組んでいる登録団体は65団体があり、県民参加の森づくりにご協力いただいています。



リーダー研修会：里山づくり意見交換



初心者研修会：チェーンソー体験



初心者研修：ツリーライティング



活動報告交流会

(2) 県民の森林づくり緊急整備事業

多くの県民が利用する森林公園である「立田山憩の森」では、施設の老朽化等による損傷もみられ、安全性・利便性の向上が必要になっています。

そこで、この事業では、県民の皆さまが安心して森林に触れ、親しむ環境の整備を進めています。

○令和3度（2021年度）の実績

内容	実績（※）
トイレの設置	1箇所
バリアフリー歩道の設置	652m

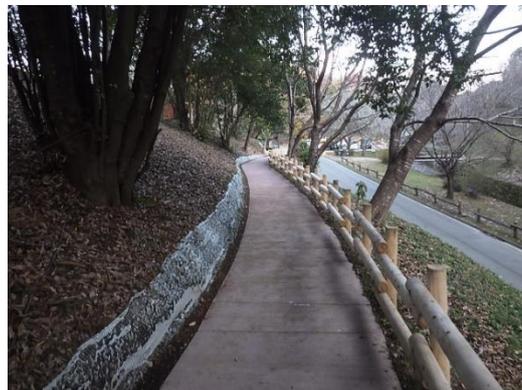
（※）令和2年度（2020年度）からの繰越額：6,907千円を含む。



トイレ完成図



トイレ完成図



バリアフリー歩道

(3) 漁民の森づくり事業

この事業では、漁業関係団体等が実施する森づくり活動への支援を行うことにより、川上と川下が連携した県民参加の森づくりへの意識醸成と、公益的機能の維持増進が発揮される森づくりの推進を図っています。

○令和3度（2021年度）の実績

内容	団体数	規模	参加人数
植栽、下草刈り等の森づくり	4団体	12.9ha	1,067人
海岸清掃	7団体	2.1km ²	220人



下草刈り



植栽

(4) ふるさと熊本の樹木活用促進事業

ふるさとの自然を大切にする県民意識の高揚を図り、県民の豊かな自然環境及び生活環境を維持することを目的として、県民が祖先から受け継ぎ、ふるさとの象徴として地域の歴史と伝統を秘めた樹木を、「ふるさと熊本の樹木」として登録しています。

県は、市町村と協力して「ふるさと熊本の樹木」の適正な保存のために必要な基礎調査を行い、その必要性について県民の理解を深めるよう適切な措置を講じる必要があります。

しかし、由緒ある樹木等を広く周知するための継続的な情報発信ができておらず、県民の理解を深めるための機会を提供できておりません。

この事業では、「ふるさと熊本の樹木」に登録された樹木の基礎調査を実施し、県民への周知を図るための出前講座を実施する等、樹木の適切な保存管理と理解の醸成を図っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

内容	実績
樹木の基礎調査	32箇所（八代、芦北、球磨地域）
普及啓発のための出前講座	<ul style="list-style-type: none">・ふるさと熊本の樹木のある神社にて、登録樹木の観察とその周辺の自然環境の現地観察・ふるさと熊本の樹木の概要説明・登録樹木の由緒や樹木の種類、維持保存の必要性について講師を招聘した座学による講座の実施



基礎調査の様子



出前講座の様子

(5) 水とみどりの森づくり税PR事業

この事業では、広く県民の皆さまに森林の役割や重要性に対する認識や関心を深めていただき、税や税事業の必要性、使途、効果等を理解していただくため、新聞広告やPRイベント等を活用し、広報活動を行っています。

○令和3年度(2021年度)の実績

事業内容	実績
大型商業施設等での税事業PRイベント	3回
新聞広告掲載(主要5紙)	1回
市町村・森林組合の広報誌への掲載	随時



大型商業施設等でのPR活動

熊本県からのお知らせ 県政情報は **熊本県** 検索

水とみどりの森づくり税

～暮らしを支える森林を守り育てる取り組みのご紹介～

森林は、水や土壌災害を防ぐなどのはたらきによって、私たちの暮らしを支えている県民共有の大切な財産です。県では、この大切な森林を守り育て、次の世代へ引き継いでいくため、「水とみどりの森づくり税」を活用して、さまざまな取り組みを進めています。

1. 県民の安全安心を守る森づくり

手入れが行き届いていない森林において、取壊(かんばつ)などの適切な整備を行うことで、土砂災害などを防ぐことができる健全な森林づくりを進めています。

4. 森に触れ、親しみ、みんなで支える意識づくり

学校への木製品の導入や、森林環境教室の開催など、子どもたちをはじめとする県民の皆さんが木に親しみ、森の役割を理解していただくための取り組みを進めています。

2. 次世代につなぐ熊本の森づくり

健全な森林を次の世代に引き継ぐため、伐採後の植林への支援や、森林に被害を及ぼすツカガシの侵入を防ぐネット設置などを進めています。

5. 森の恵みを活かす意識づくり

県産木材を活用した建築物などの整備による景観づくりを支援し、森林の恵みを活かす取り組みを進めています。

3. 森づくりを進めるための基礎づくり

森づくりの基盤となる、地域の森林を守り育てる人材の活動支援や、健全な森林を育成するための調査・研究を行っています。

みんなで森を守るモン

熊本県水とみどりの森づくり税 検索

森林課編集
TEL096-333-2438

新聞広告

(6) くまもとの木と親しむ環境推進事業

この事業では、多くの県民の皆さま、特に次世代を担う子どもたちに、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用が、多様で豊かな森林を未来に繋ぐことを理解し、木材を身近に感じてもらうため、木の温もりや香りに親しむ環境を提供しています。

○令和3度（2021年度）の実績

①くまもとの木製遊具推進事業

幼稚園や保育所、県内で開催されるイベント等に県産材で作った木製遊具を貸し出すとともに、木育プログラムを実施しました。

内容	実績
木製遊具の貸出	35回
木育イベント	1回



積み木セット



ヒノキの棒プール

②木とともに育つ環境整備事業

幼稚園・保育所等において、県産材を使用した木製の机、椅子、棚等を購入する際の経費の一部を助成しました。

内容	実績
施設数	21施設

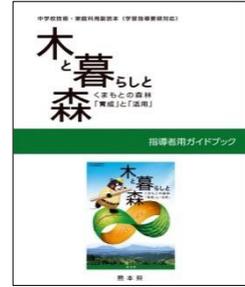


保育所に導入された木製机・椅子

③くまもとの木で育む教育推進事業

ア) 副読本の作成・提供

義務教育課程における木育推進のため、小学5年生社会科用及び中学校技術・家庭科用の副読本を作成し、県内すべての小中学校等へ提供しました。



小学5年生社会科用副読本とガイドブック

中学校技術・家庭科用副読本とガイドブック

内容	実績
副読本提供児童生徒数	(小学5年生) 約17,695人 (中学1年生) 約18,358人
ガイドブック(教師用)提供数	171校

イ) 木育インストラクターの養成講座

木育に関心を持つ県民の方を対象に、木育インストラクター養成講座(初級・中級・上級 計3回)を実施し、受講者を熊本県木育インストラクターとして知事認定しました。

内容	実績
認定者数	39人
累計(H24~)	354人



養成講座(上級)認定証

ウ) くまもと木育のつどいの開催

令和3年に改正された木材利用促進法の周知と木材利用の意義等の普及啓発及び木育インストラクターの情報交換・実践を目的として、「くまもと木育のつどい」を開催しました。

内容	実績
参加者数	157人



木育のつどいの様子

④くまもとの木とふれあう木育推進事業

県内各地域で木育活動を行う団体に対して、活動経費の一部を助成しました。

内容	実績
実施団体数	12団体



助成を行ったイベントの様子

(7) くまもとの木を活かす木造住宅等推進事業

この事業では、多くの県民の皆さまが利用、または目に触れる公共的空間（観光地や商店街など）に、県産木材を活用した建築物や案内板、外構、ベンチ等の施設の設置又は補修することにより、実施地域における一定の広がりのある統一空間（町並み、自然、歴史及び文化的空間）の形成を図る活動への支援を行っています。

○令和3度（2021年度）の実績

①木を活かした景観づくり事業

県内8市町（熊本市、八代市、山鹿市、阿蘇市、南小国町、小国町、山都町、芦北町）の15団体が行うベンチ・長椅子、看板、案内板等に県産木材を活用した景観づくりへの助成を実施しました。



②木製塀普及促進モデル事業

県内8市町（熊本市、荒尾市、玉名市、山鹿市、阿蘇市、小国町、山都町、芦北町）の11団体が行う県産木材を活用し木製塀の設置への助成を実施しました。



(8) 特用林産物流通促進事業

この事業では、熊本の森づくりを支える、シイタケをはじめとする森の恵みの普及促進による特用林産物の消費拡大を通じ、県民の皆さまと一っしょに森林の維持や山村地域の活性化をサポートしていくための情報の発信を行っています。

○令和3年度（2021年度）の実績

内容	実績
特用林産物をPRするための情報発信	Web広告
「森の恵みサポーター」の設立	登録20人
特用林産物の研修会を開催	1回（20人参加）

森の恵みである特用林産物に関するPR動画を作成し、SNSやホームページを通じて広く情報を発信しました。

さらに、県民を対象として特用林産物の振興を応援する「森の恵みサポーター」を設立しました。これにより生産者側からの情報発信だけでなく、サポーター（消費者）からも特用林産物の消費拡大を促進する情報が発信され、相互に特用林産物を応援する体制を整えました。

また、「森の恵みサポーター」を対象として特用林産物の研修会を開催し、特用林産物関係団体の日頃の取組みの紹介や特用林産物の魅力を伝えるための研修会の開催など、特用林産物とのふれあい体験活動を実施しました。



PR動画



特用林産物の研修会



Web 広告